



埼玉県マスコット
「コバトン」

令和7年度



水稻の生育概況 vol.2

(令和7年7月10日現在)
埼玉県農業技術研究センター

要 約

- ◎気象概況：6月は平年に比べ平均気温は $+2.9^{\circ}\text{C}$ とかなり高く、降水量は76%と少なく、日照時間は130%と多かった。
- ◎生育状況：高温の影響により生育は順調である。早期・早植地域では平年に比べ、生育は進み、出穂が早まると見込まれる。
- ◎今後取るべき技術対策
 - ・水 管 理：早植栽培で中干しが未実施のほ場は直ちに実施する。普通期栽培では移植後30日頃を目安に中干しを実施する。
 - ・穂 肥：平年に比べ幼穂の分化が早まると予想されるため、葉色等の生育診断を早めに行い、適期に穂肥を実施する。
 - ・病虫害防除：イネカメムシの発生が多いことから、ほ場をよく観察し薬剤防除を実施する。出穂期が早まると予想されるため、適期防除に努める。

1 気象の概況

6月の平均気温は、第1半旬を除いて平年より高く、特に第4半旬以降は最高気温が 30°C を超える日が続き、月平均は平年差 $+2.9^{\circ}\text{C}$ と観測史上第1位となった。降水量は、第1、5半旬が平年より多かったほかは平年並～かなり少なく、月合計では平年比76%となった。日照時間は、第1～3半旬は平年並～少なかったが、第4半旬以降は平年より多く、月合計では平年比130%となった。

気象庁の発表によると、関東甲信の梅雨入りは6月10日頃であり、平年より3日遅かった。

2 生育の概況

(1) センター内生育相

ア 早期栽培（5月1日植 コシヒカリ）

高温多照傾向により生育は進み、移植後60日調査では、草丈が平年比107%、葉位は平年より0.3枚早い。茎数は移植後40日調査では平年比116%と多かったが、中干しが順調に実施できたことにより、平年比96%となった。

幼穂長は1.6mm（平年値：1.0mm）、稈長5.2cm（平年値：2.9cm）と平年より伸長が早く、気象庁が7月3日に発表した東日本における向こう1か月予報の気温は平年より高い見込みから、出穂期は平年（7月25日）より早まると予想される。

イ 早植栽培（5月20日植 彩のかがやき）

高温多照により、移植後20日以降の生育は平年を上回って推移し、移植後40日調査では、草丈は平年比107%、茎数は平年比114%、葉位の進展は平年より0.8枚早く、旺盛な生育となっている。

ウ 普通期栽培（6月25日植 彩のきずな）

育苗期間後半の高温多照により、苗の葉位の進展はやや早まり、移植時の草丈はやや短かったものの平年並の苗質であった。移植後は植え傷みもなく、活着は良好であった。

（2）県内全般

早期・早植栽培とも草丈は平年を上回っているが、茎数は平年並となっている。早期栽培では、幼穂の分化が平年に比べ2～3日程度早まっている。

普通期栽培では、定期的に降雨があり麦類の収穫が遅れたため、田植作業にも遅れが生じ、苗質の老化も見られた。また、移植時期が高温であったことから、麦わら等の有機物の分解に伴うガス害や除草剤の薬害・藻類の発生等により、苗の活着に時間を要しているほ場が散見される。

3 今後の生育予測

（1）気象予測

気象庁が7月3日に発表した関東甲信地方の1カ月予報では、暖かい空気に覆われやすいため、気温は高くなる見込みである。降水量は平年並か少なく、日照時間は多い見込みである。

また、6月24日に発表した3カ月予報でも、7～9月の気温は高い見込みである。

（2）生育予測

ア 早期、早植栽培

今後も気温が高いと予報されていることから、生育は平年より早まり、農業技術研究センター開発の農作物発育予測プログラムでは出穂期が5日程度早まると予測している。

イ 普通期栽培

気温が高いと予報されていることから、生育は平年に比べ早まると予想される。分けつの発生が旺盛で過繁茂気味となることが予想される。

4 今後取るべき技術対策

（1）早期、早植栽培

ア 水管理

早期栽培では出穂期前後7日間は深水管理とする。その後は根の活力を維持するため間断かん水を行う。

早植栽培で中干しを実施していないほ場では、直ちに実施し無効茎の発生を抑える。中干し後～幼穂形成期までは根の活力を維持するため間断かん水

を行う。かけ流しかんがいは、地域の水不足を招き高温障害の発生を助長する危険があるので行わない。

イ 穂肥

高温障害の軽減には葉色診断に基づく追肥（穂肥）が最も重要であるため、ほ場を良く観察し、早め早めの対策を講じる。

今後も気温が高く推移すると予報されていることから、平年に比べ出穂期が早まると予想される。このため、幼穂長、葉色等の観察結果に基づき適期を逃さないよう穂肥を施用する。

早植栽培の「彩のかがやき」では、出穂前23～22日頃（幼穂長1～2mmに達した時期）に葉色が葉色板で4以下の場合は窒素成分で3kg/10aを限度に穂肥を施用する。葉色が4以上の場合は葉色が低下するまで施用時期を遅らせ、窒素成分で2kg/10a程度に減ずる。また、適期に穂肥を施用した場合でも出穂前10日頃に葉色を確認し、葉色が4以下の場合は窒素成分で2kg/10a程度の穂肥を追加する。「コシヒカリ」等で基肥一発肥料を施用している場合でも、穂肥時期に葉色が淡い場合は追肥を検討する。

ウ 病害虫防除

本年は、6月下旬からイネカメムシ成虫の水田への侵入が確認されている。地域内で作付けの早いほ場に多くの成虫が集中している事例も各地で見られている。県では、7月3日に病害虫発生予察注意報を発表し、警戒を呼びかけている。

出穂期の籾の吸汁加害により収量・品質に甚大な被害を及ぼすことから、出穂期を基準とした防除を行う。出穂が早まる可能性が高いことから、防除適期を逃さず実施する。なお、出穂前から多数の成虫が侵入している場合には、増殖や周囲への拡散を防ぐため、出穂前にも防除を行う。

（イネカメムシ情報：[埼玉県HP：イネカメムシ防除資料](#)）

エ 雑草防除

高温の影響から後発の雑草が散見される。雑草が多発した場合は、草種に合わせた除草剤を適期に散布するとともに、クサネムなどの大型種子の雑草は玄米調製時に選別できないため収穫前に取り除く。

また、特定外来生物の「ナガエツルノゲイトウ」が県内で発生している。水田内や畦畔に定着すると防除が困難となるため、ほ場の水口周辺を重点に観察し、早期発見と早期防除を心掛ける。

（ナガエツルノゲイトウ情報：[埼玉県HP：ナガエツルノゲイトウについて](#)）

エ）

（2）普通期栽培

ア 水管理

移植後30日頃を目安に中干しを実施するが、高温の影響により分けつの発生が進むと予想されることから、ほ場を観察し有効茎を確保したら速やかに小ひびが入る程度に中干しを実施する。中干し後は間断かん水を励行し根の活力維持に努める。

麦わら等の有機物の急激な分解に伴うガス害により活着が遅れ初期生育の停滞が見られる場合は、田面を露出させてガス抜きを行う。除草剤を散布し

ている場合は、散布後1週間経過してから落水する。田面の露出により除草剤の効果が低下した場合は後述の除草剤の散布を検討する。

イ 穂肥

「彩のかがやき」では、出穂前25日頃（幼穂長0.5～1 mm）に葉色が4以下（葉色板）の場合は窒素成分で3 kg/10 aを限度に穂肥を施用する。葉色が4以上の場合は低下するまで施用時期を遅らせ、4以下に低下してきたら窒素成分を2 kg/10 a程度に減じて施用する。

また、適期に穂肥を施用した場合でも出穂前10日頃に葉色を確認し、葉色が4以下の場合は窒素成分で2 kg/10 a程度穂肥を追加する。

ウ 病虫害防除

イネカメムシ等の斑点米カメムシ類の発生地域と発生量が急速に拡大し、被害の発生が懸念される。出穂前から水田及び周辺のヒエなどのイネ科雑草を観察して発生が確認されたら、前出の防除対策資料を参考に防除を検討する。

また、イネ縞葉枯病等を媒介するヒメトビウンカが過去10年で2番目に高い生息密度となっている。「キヌヒカリ」等の罹病性品種では必要に応じて薬剤による防除を検討する。

エ 雑草防除

雑草が多発した場合は、草種・葉齢に合わせた除草剤（中期、後期剤）の適期散布を行う。用水量が少なく、湛水が維持できない場合は、中干し時期に合わせて落水茎葉処理タイプの除草剤を使用する。

解析・考察に用いた具体的数字

1 気象表（熊谷气象台日別測定値から集計）

半旬	平均気温(°C)		最高気温(°C)		最低気温(°C)		降水量(mm)		日照時間(hr)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
1	20.9	21.0	27.0	26.4	15.8	16.5	23.0	21.3	32.3	29.1
2	23.2	21.4	28.0	26.5	19.6	17.2	11.0	26.0	21.1	24.9
3	22.7	21.9	26.4	26.7	19.3	18.0	37.5	29.2	8.2	21.6
4	28.9	22.5	34.6	27.1	24.1	18.8	0.0	28.9	40.9	19.9
5	26.9	23.1	32.1	27.5	23.5	19.5	36.5	26.0	23.5	18.6
6	28.6	23.9	34.6	28.3	23.7	20.3	5.5	24.8	47.9	18.7
平均	25.2	22.3	30.5	27.1	21.0	18.3	合計 113.5	149.5	173.9	133.9

注) 半旬数値は熊谷地方气象台日別測定値から集計。ただし、月平均・合計は气象台値。

平年値は 1991～2020 年の气象台値。

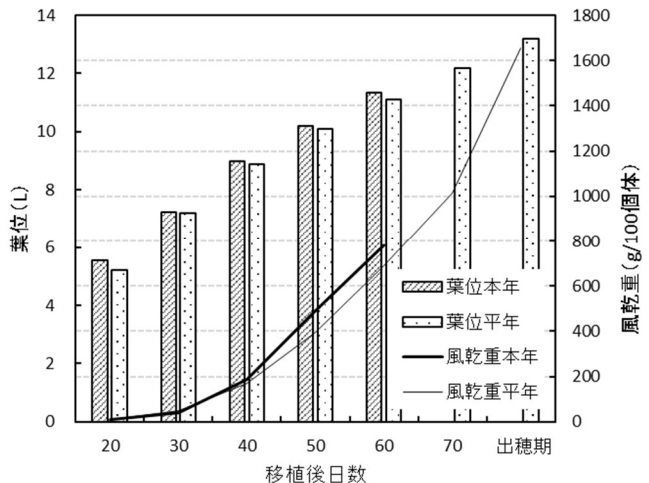
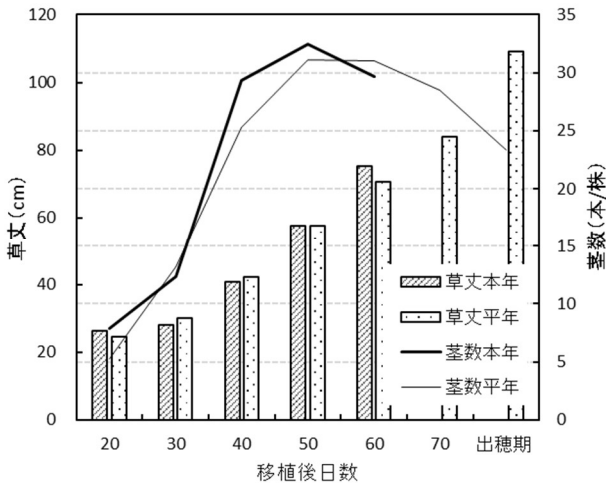
2 早期栽培（5月1日植 コシヒカリ）

（1）本田生育

移植後 日数	草丈(cm)			茎数(本/株)			葉位(L)			風乾重(g/100本)		
	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年差	本年	平年	平年比
40	40.9	42.2	97	29.3	25.3	116	9.0	8.9	0.1	186.8	171.5	109
50	57.7	57.7	100	32.5	31.1	105	10.2	10.1	0.1	489.0	394.6	124
60	75.4	70.6	107	29.7	31.0	96	11.4	11.1	0.3	782.6	691.8	113

注) 平年値は平成11年～令和6年の平均(H22を除く)。 平年比は%

（2）生育経過



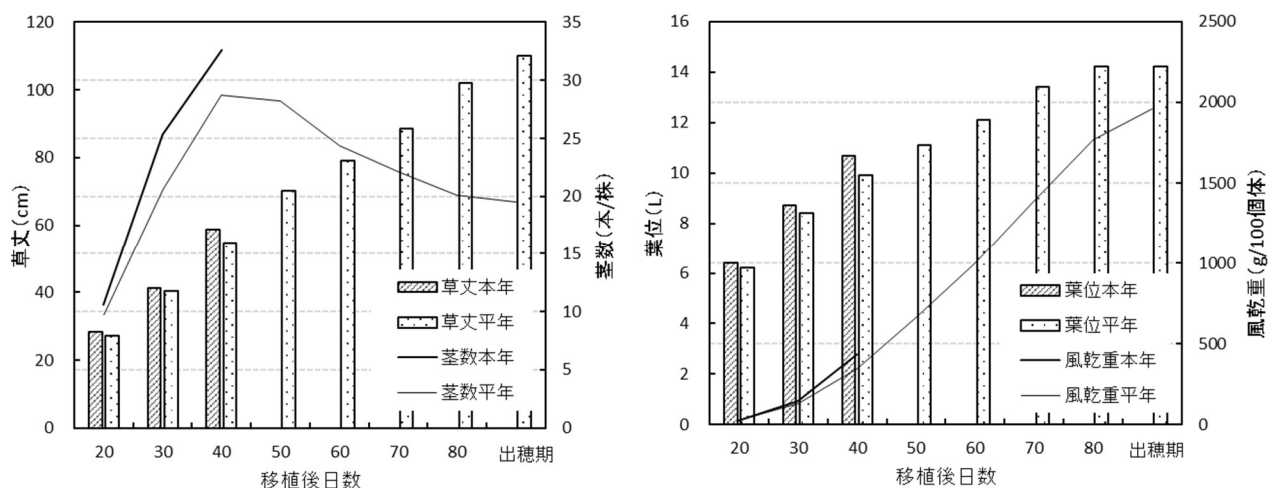
3 早植栽培（5月20日植 彩のかがやき）

（1）本田生育

移植後 日数	草丈(cm)			茎数(本/株)			葉位(L)			風乾重(g/100本)		
	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年差	本年	平年	平年比
20	28.2	27.3	103	10.6	9.7	109	6.4	6.2	0.2	26.7	26.5	101
30	41.2	40.4	102	25.3	20.6	123	8.7	8.4	0.3	148.3	131.9	112
40	58.6	54.6	107	32.6	28.7	114	10.7	9.9	0.8	434.7	346.9	125

注) 平年値は平成12年～令和6年の平均。 平年比は%

(2) 生育経過

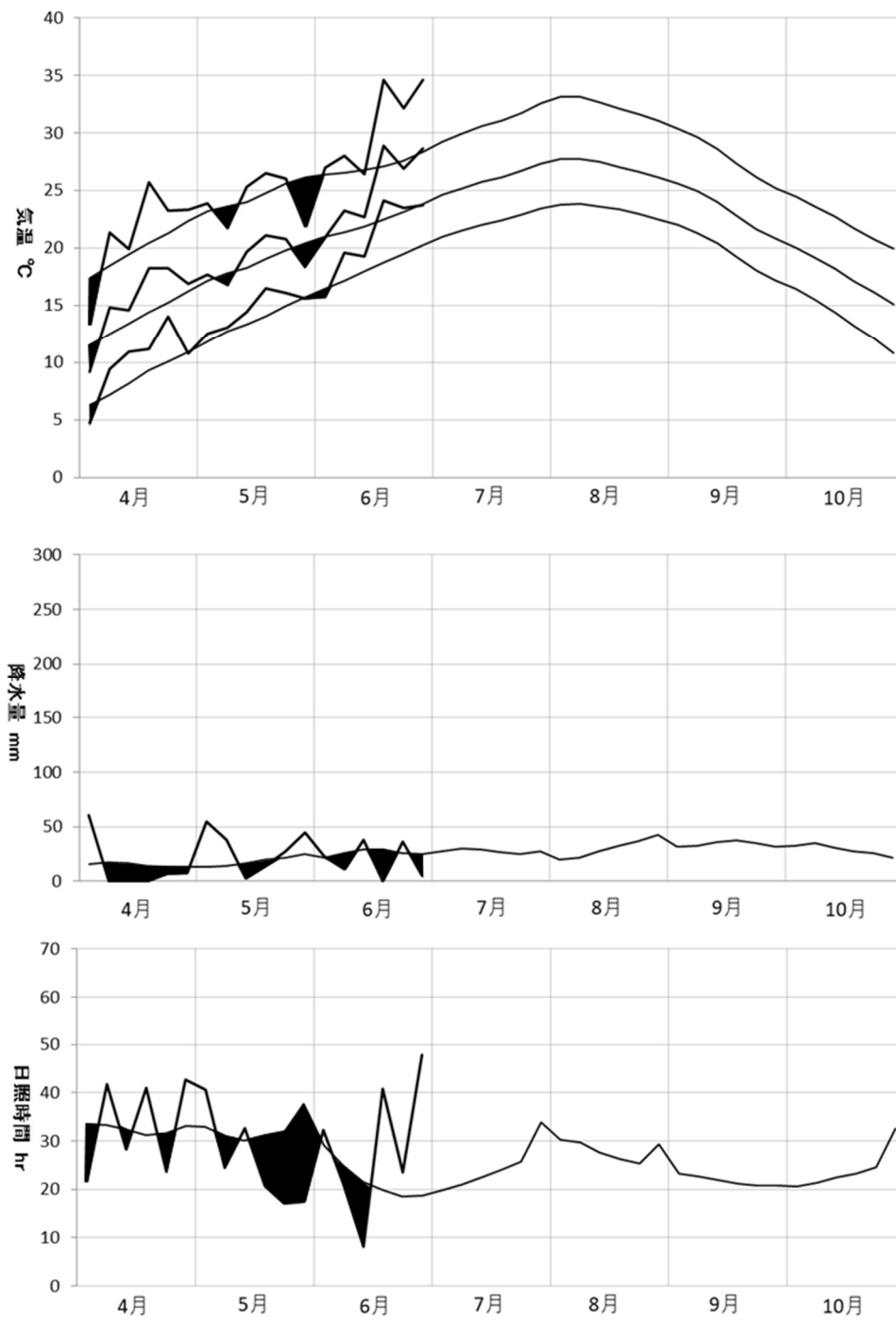


4 普通期栽培（6月25日植 彩のきずな）

(1) 苗質

草丈 (cm)			葉位 (L)			風乾重 (g/100本)			充実度 (mg/cm)		
本年	平年	平年比	本年	平年	平年差	本年	平年	平年比	本年	平年	平年差
15.4	16.5	93	3.8	3.5	0.3	2.6	2.8	91	1.66	1.70	-0.04

注) 平年値は平成27年～令和6年の平均。 平年比は%、充実度は風乾重/草丈。



令和7年夏作期間気象図
(熊谷気象台日別測定値から作成)